



実施者

＜実施者＞産学協働地域活力創造事業 地域コーディネーター 青木 秀幸（千葉工業大学非常勤講師、合同会社いもんだ）
 ※実施サポート 千葉工業大学新習志野学生担当
 千葉工業大学 情報科学部 情報工学科 1年 佐久間恒洋、創造工学部 建築学科 2年 齋藤 知哉

＜協働パートナー＞

【行政】南房総市 市民生活部 市民課 市民協働G、観光プロモーション課、教育委員会 子ども教育課、富山地域センター
 【企業等】ベケレの村ほか
 【市民団体等】地域づくり協議会（ふらっと、みよし、きらり、きずな）、大井自主防災組織かわせみ、白間津大祭実行委員会、フワマーチ実行委員会



1～3 第33回南房総フラワーマーチへ学生による再始動応援活動 4 前回令和元年開催の「白間津大祭」御浜出にて神輿をかつがせてもらう学生

域学協働の工夫！

★地域の「産業（主に1次）」「防災」「市民活動」の担い手を支え、機能を補完するような南房総市の関係人口を育てるといった地域側の関係主体と大学との目的・目標の共有
 ★学生にはボランティア以降地域への「関わりしろ」を見つけるうえでのヒントを地域側より提供してもらい、地域や団体・人との関係性の階段を上っていくうえでの具体的な方法（貢献形態、学内カリキュラム）も紹介

ことから竹を使った休憩所づくりを、青年会メンバーや地元大工等と一緒に動めていきたい（ボランティア&プロボノ）。

③お祭り当日や造作物の作り方等の画像や映像記録を残したい。地域の人は忙しくてこれまでほとんどできない（プロボノ）

これを受けて本プロジェクトとしても8月から休憩所等の企画・デザイン検討を開始し、サークルなど踊り手候補を探してきた。しかし、年明け1月、残念ながら祭りの中心的存在で地域の子どもが務める「仲立」の担い手が確保できず、歴史上初めて令和5年度開催予定の白間津大祭の中止が実行委員会によって決定された。

(2) 「1次産業農業の新分野事業展開」や「防災教育」に纏わる担い手応援に向けたボランティア&プロボノについて（計画協議）

1次産業農業の新分野事業展開では、11月から2月にかけて数年前に新規就農されたカレンデュラ農家さんのコスメ製品開発や体験プログラム検討にあたってのモニターボランティアプログラムを援農とともに企画して準備をすすめていたが、コロナ感染症拡大の影響もあり応募者の見通しがたらず本企画の実施を次年度に延期した。

「防災教育」の担い手応援については、市内の小中校生向けの防災教育の担い手の一組織市役所消防防災課と学校での防災教育についての課題共有と大学連携の可能性を協議し（10月）、南房総市版の災害シミュレーションゲーム開発についての協働を約束した。また地域防災の担い手自主防災組織の一つかわせみ（大井）からは防災訓練（10月）を通じて、これから富山において自主防災組織の地域普及を目指している地域センター等関係者からは「地域防災講座（6月）」を通じて関係者へのヒヤリングや情報交換の協力を得た。そこから今後の学生防災サポーター育成プログラム等開発の知見を得た。

(3) 市民活動等の再始動を促す支援ツール「ボランティアマッチングサイト」についての調査研究を開始

＊表彰・マスコミ掲載など

・市町村と市民活動団体との連携促進事業に係るアドバイザー派遣活用事業（千葉県）、茂原市役所生活課市民活動支援センター主催「まちびとカフェ特別編 市民活動の再始動～アフタコロナの協働にむけて～」、2023.3 ※協働の再構築に関する講演とリジカ教材を使ったワークショップにてプレゼンテーションを担当。

1. 背景・目的

南房総市では、人口の減少や少子高齢化等の進行に加えて度重なる自然災害やコロナ感染拡大の影響等で、地域の産業活動や地域活動（お祭りや行政区関連行事ほか）、市民活動等が停滞するなど地域全体の活力低下が危惧されている。一つの要因はコミュニティ内外のつながりの断絶。今後、南房総市が活力を取り戻し次なる災禍にも対応しうる強い地域を目指すには、地域の担い手が元気を取り戻し、市民協働（つながり）をアップデートすることが重要である。

そこで本PJでは、本年度主な目的に以下の3つを設定した。

①南房総市で特に担い手の応援が必要と考えられた「市民活動」「地域産業」「防災教育」の担い手の潜在的な困りごとを探り、大学関係人口がボランティア等でそれらの解消に貢献すること、

②現地での実践活動を通じて担い手の役割や機能を補完するような大学関係人口を育てること、

③団体外をつながりを取り戻すためのボランティア・プロボノ等の効果的なマッチングの新たな手法開発を試みること

そしてこれらの取組みをすすめることによって、工科系の大学生や教職員等の「大学関係人口」の“新しい人の流れ”を南房総市に定着させ、地域の活力再生にむけたビヨンドコロナの新たな市民協働推進の一助となることを期待する。

2. 活動内容

(1) 「市民活動等の再始動」に纏わるボランティア等サポート

1) 2023.2.18-19 千倉地域を中心に3年ぶりに開催された自然に親しみながら健康づくりするウォーキングイベント「第33回南房総フラワーマーチ」への学生による再始動応援

本イベントは兼ねてより中心的な運営団体の高齢化で継続的な開催が不安視される中、コロナ禍以前よりボランティアプログラムを絡めて学生ボランティアがお手伝いをしてきたイベントであった。今回

は3年ぶりの再開に当たっての運営サポートを主旨としたボランティアプログラムに学生2人が参加。サポート内容は前日の千倉保健センター会場のテント設置等からはじまり当日の中継地点での湯茶接待、駐車場案内、会場撤収作業など。当日は約2,000人の参加があり、学生は参加者や運営団体、役場担当課など多様な関係者と、コミュニケーションを積極的にとりながら行なった（図1-3）。

2) 国指定重要無形民俗文化財「白間津大祭」の民俗文化継承の視点からの学生・教員による4年ぶりの開催応援（事前準備）

千倉町の白間津地区では4年に1度7月下旬の3日間にわたって祭礼行「白間津大祭」が行なわれる（次回は令和5年）。1000年以上の歴史をもつ本祭礼行は神社から神輿で海岸の仮宮に神様を送り届ける「御浜出」と、12mの大織を縄で曳き合う「オオナワタシ」、そして奉納踊「ササラ踊り」を中心とする民俗芸能の3つの要素からなる。しかしこれらの担い手は男女の性別、年齢で決まっており、白間津地区220戸あまりほぼ全世帯の参加をもってしても、少子化の影響で特に子どもを中心とした役割の担い手が確保が困難な状況にあった。それでも前回は工夫して各役割の年齢制限を上げたり、OBが協力するなど地域内でそれでも足りない人手は周辺地域からのボランティアの応援を仰ぎ補っていた。千葉工大の学生・教員有志はその地域外のボランティア（関係人口）として、期間前から期間中に延べ50名が参加。特別な技能や練習が必要ない会場設営、幟づくり、神輿の担ぎ手などを担っていた。これらの経緯や関係性をベースに本年度は次年度開催を迎える祭礼行にむけて、運営側が困っていることを共有し（6月）、それに対する応援方策について白間津青年会や白間津大祭保存会の役員メンバーと事前協議を行ってきた（7月）。そこから主に以下のような要望があがってきた。

①踊り手が足りないので練習から当日まで一連の取り組みに参加してくれる踊ることが好きな学生さんを募集したい（ボランティア）。

②前回、関係者や来場者用の陽よけ場所づくりへの要望があがった